

第3回： いま水環境は

開催日： 1995年11月25日 / 会場： 「川崎市産業振興会館ホール」

開催趣旨： 最近、生活排水や工場排水をはじめ、廃棄物埋立地、ゴルフ場や農地などからも有害物質が川、湖、海などに流入し、また地下水にも侵入して、飲料水の安全性や水辺の生物への悪影響が心配されています。本セミナーは、これらの新しい水環境問題の学術研究の最先端を、将来を担う青少年や一般市民にわかりやすく伝え、正しい知識を普及、啓蒙することを目的としています。

講演タイトル（講師／所属（当時））：

○ 「いま川、湖、海の水質は」（須藤隆一／東北大・工）

水環境の主役となる水質について、主に川、湖、海の現状と将来展望を提示する。水質悪化の原因は日常生活から発生するものが多く、少汚濁負荷型ライフスタイルの構築と地域住民参加型水質管理の実行が必要であることを論ずる。

○ 「いま地下水は」（井口潔／神奈川県環科セ）

おいしく、きれいな水として世界的に評価を得た日本の水は多くが地下からの湧水であっ

たが、近年、化学物質汚染、枯渇、塩水化、地盤沈下等が生じている。水の危機を解決する第一歩は、巡る水の姿をよく知ることにある。

○ 「いま水道水の安全は」（浦野紘平／横国大・工）

水道水の安全性についての基礎知識と水質試験や水質改善のための最新技術を紹介する。水という必要不可欠な資源を持続的に上手に使うためには、他の地域の人や他の生物の存在にも心配りのできる知識と優しさが必要である。

○ 「いま生活排水は」（大垣眞一郎／東大・工）

水資源の特徴、都市における水、生活排水の処理・処分方式、下水処理場のしくみ、生活排水の新しい処理手法と資源としての有効利用について解説する。生活排水問題の解決には総合的で高度な知性が必要である。

○ 「いま水辺の生物は」（森下郁子／淡水生物研）

日本一の流域面積を誇る利根川を中心に、人と川の関わり、生態系の遷移などについて解説する。今後、生態系の評価が問われるときに回復可能な生態系について提示する。